

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		博物館活動推進事業		グループ・担当名	博物館グループ学芸担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	05 博物館の充実			目	06 博物館費
	施策(小)	01 学校教育との連携の充実			大事業	02 博物館活動推進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	博物館法			経費区分	政策的経費	
事業概要	博物館教育普及活動としての企画展・特別展等の展示活動の実施。展示活動を通じて、ふるさとの自然や歴史、芸術等の面白さや大切さを知ってもらう。博物館教育普及活動を推進するため、各種講座や展示会等を実施。博物館に収蔵している収蔵物や情報などをベースにして、学校教育と連携しながら、体験授業の支援を積極的に進めるとともに、各種体験事業等を実施してふるさとの自然や歴史、芸術の持つ面白さ、価値を知ってもらう。					
事業目的	美幌の自然や歴史、芸術等の貴重さ、面白さ等について認識を広げてもらい、ふるさと意識を高揚してもらう。					
事業の対象	一般町民					
実施結果・現状と課題	<p>【実施結果】 調査研究活動により情報や資料を収集・保管するとともに、その成果をもとにした常設展示、各種講座、特別展・企画展の開催及び学校教育と連携した体験授業の実践を行う。</p> <p>【現状と課題】 調査研究活動や教育普及活動等、充実した内容で進んでいる。学校からの体験授業支援協力の要望が年々増加しており、その効率的な対応のありかたが課題となっている。</p>					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	9,020	8,038	9,666	8,548	9,014	9,800
国支出金	0	-	-	-	0	-
道支出金	0	-	-	-	0	-
地方債	0	-	-	-	0	-
その他	68	-	-	-	0	-
一般財源	8,952	8,038	9,666	8,548	9,014	9,800
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	9,020	8,038	9,666	8,548	9,014	9,800

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	講座教室等	目標	回			140	140	140
		実績	回	153	139	121		
		達成率	%		99.29	86.43		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	ふるさとの自然、歴史、芸術等の貴重さ・面白さを、多くの町民に理解してもらい、興味を抱いてもらうためには、不可欠。妥当					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	講座教室等の充実を図ることは、目標達成のため、非常に有効な手段である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	類似事業を整理(統合・廃止)したりすることで、経費の効率化を図っている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが妥当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが妥当である。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	主催事業や学校と連携した体験学習が年々増加しているため、今後は企画展を1回減らし体験学習の充実を図る。							

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		埋蔵文化財発掘調査事業		グループ・担当名	博物館グループ学芸担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	04 芸術、文化の振興			項	04 社会教育費
	施策(中)	02 文化財や郷土資料等の保全、継承			目	07 文化財保護費
	施策(小)	01 文化財の保全保護			大業	01 文化財保護事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	文化財保護法			経費区分	投資的経費	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲都福梅地区及び豊高第2地区において道営畑総に伴う所在確認・範囲確認調査(国補)を実施する。 ・ 町内において、急を要する調査についても適宜対応を行う。 ・ 過去に発掘調査を実施し、未報告となっている資料の整理作業を行う。 					
事業目的	調査により、美幌の埋蔵文化財資料を次世代に残していく。					
事業の対象	町					
実施結果	【実施結果】 発掘調査や遺物の収集・保管を進める。					
現状と課題	【現状と課題】 各種要望に応じて、埋蔵文化財発掘調査を進めているのと同時に、貴重な遺物資料の収集・保管を計画的に進めている。大規模発掘調査や複数の発掘調査が同時発生した場合等、対応専門職員の確保を工夫しなければならない。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	14,070	16,753	14,434	12,849	15,413	15,156
国支出金	4,000	5,120	3,039	3,039	3,420	4,000
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	10,070	11,633	11,395	9,810	11,993	11,156
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	14,070	16,753	14,434	12,849	15,413	15,156

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	埋蔵文化財発掘調査	目標	ha (250	150	200	200
		実績	ha (214	279	274		
		達成率	%		111.6	182.67		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	文化財保護法に基づき、大規模な開発を行う際には事前の調査が必要となるので妥当である					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	圃場整備や大規模開発を円滑に進めるためには有効な手段である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	その年度の埋蔵文化財対象調査地の面積や状況に合わせて、適正経費を算出している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが妥当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが妥当である。					予算反映額 (概算)	0千円
今後の改善点	複数の埋蔵文化財発掘調査が発生した場合は発掘調査担当者の能力を持つ者の増員が望ましい。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		文化財等収集保全事業		グループ・担当名	博物館グループ学芸担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	04 芸術、文化の振興			項	04 社会教育費
	施策(中)	02 文化財や郷土資料等の保全、継承			目	07 文化財保護費
	施策(小)	01 文化財の保全保護			大業	01 文化財保護事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	文化財保護法			経費区分	政策的経費	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 美幌町では、町指定文化財として4件が指定されている。このうち、美幌小学校のカシワの木や柏が丘公園内のベニバナヤマシヤクヤク自生地は、常に保全を要することから、樹木医による点検や防護策の設置等の対策を行う。 美幌町民に対し、町の文化財について広く周知を行う。 その他、文化財等の保存・収集活動を行う。 					
事業目的	美幌の文化的資料・財産を次世代に残していく					
事業の対象	町					
実施結果・現状と課題	<p>【実施結果】 文化財に値する物件等の情報を継続して収集するとともに、指定文化財の保全を進める。郷土資料の収集・保管を進める。</p> <p>【現状と課題】 現在指定されている町文化財に関しては、おおむね良好に保全・保護されているが、一部民俗文化財について、引き継ぐ方々の高齢化が進み、その継承に支障が生じる事態となっている。</p>					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	116	115	172	121	200	200
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	116	115	172	121	200	200
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	116	115	172	121	200	200

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	文化財等収集保全	目標	件		4	4	4	4
		実績	件	4	4	4		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域の文化財は急速に失われつつあることから、その保全・収集が必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	町の文化財への認知度は高まっており、有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	文化財を保護・維持するのに必要な経費を、効率よく使用している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが妥当である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが妥当である。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	美幌町内の若手で組織されたグループメンバーが、居住地区は違うものの、瑞治足柄奴の保存に協力したいとの意向があることから、瑞治足柄奴保存会と協議しながら、今後実現可能かどうか検討していきたい。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		博物館維持管理事業		グループ・担当名	博物館グループ管理担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	05 博物館の充実			目	06 博物館費
	施策(小)	03 博物館情報提供の充実			大事業	01 博物館運営事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	博物館法				経費区分	-
事業概要	博物館の適正管理及び運営の推進を図る。 博物館の経費節減のため照明のLED化を推進する。 美幌町並びに美幌博物館の魅力を町内外に発信PRし来館者増を図る。					
事業目的	博物館運営に支障のないよう維持管理に努める。 館運営経費をできるだけ節減し適正な運営を図る。 町内利用者の増及び道外・町外からの来館者の増					
事業の対象	博物館					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 博物館運営経費の適正管理。 館内の定期的な点検。 ----- 【現状と課題】 博物館情報発信を進めていることも一因となり、入館者数が増加傾向にある。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	73,270	33,977	33,610	30,553	32,965	36,000
国支出金	0	0	0	-	0	-
道支出金	0	0	0	-	0	-
地方債	0	0	0	-	0	-
その他	4,362	458	307	-	391	-
一般財源	68,908	33,519	33,303	30,553	32,574	36,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	73,270	33,977	33,610	30,553	32,965	36,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	館の運営及びPR	目標	人		9,500	10,000	11,000	11,000
		実績	人	8,358	9,323	11,245		
		達成率	%		98.13	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	来館者を確保するためには、魅力的なPR活動、施設整備は必要不可欠である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	目標達成のため、様々な情報発信媒体を利用したPR活動、施設整備をすることは、有効な手段である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	博物館の維持管理・PR活動等に必要な経費を算出して使用している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持の成果を維持するため。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持の成果を維持するため。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	博物館のPRとして、ホームページ、フェイスブック、メールマガジンの利用、ポスター・チラシの配布先の工夫のほか、情報誌じゃらんの年度版に広告掲載することにより、入館者数が増加してきており、平成29年度は、							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		博物館改修事業		グループ・担当名	博物館グループ管理担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	05 博物館の充実			目	06 博物館費
	施策(小)	04 博物館施設周辺の整備			大事業	01 博物館運営事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	博物館法			経費区分	投資的経費	
事業概要	昭和62年竣工から30年が経過し、建物及び設備等の老朽化が著しいため、年次計画の基、将来的に利用可能な整備・改修を順次行って行く。 平成26年度暖房設備改修を実施。平成27年度トイレの洋式化を実施。平成28年度館正面通路拡張工事・館裏舗装及び館内照明LED化を実施。平成29年度館正面前庭階段改修工事・物見の塔屋根の一部補修を実施。平成30年度は空調機械室屋上防水改修工事を実施する。					
事業目的	・老朽化した建物及び設備等の年次的・計画的改修整備 ・老朽化した建物及び設備等を整備することにより、施設利用者の利便性の向上を図る。					
事業の対象	博物館建物及び設備					
実施結果	【実施結果】 今後も、年次計画に基づき、建物及び設備等の整備・改修を行う。					
現状と課題	【現状と課題】 博物館オープンから30年以上経過しており、建物の老朽化が顕著に進んでいるものの、改修・修繕に多額な経費が必要となることもあり、思うように進んでいない。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	財源不足	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,439	7,714	4,052	3,394	2,169	19,935
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	1,439	7,714	4,052	3,394	2,169	19,935
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	1,439	7,714	4,052	3,394	2,169	19,935

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	博物館の改修	目標	%		100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	今後30年は現在の施設で運営していく方向であることから、全体的な建物及び設備等の整備・改修は必要不可欠である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	建物及び設備等の整備・改修は目標達成のための手段である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	年次計画を立てると共に、必要箇所の整備・改修に必要な経費を都度見直している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状の計画で進めることが妥当。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが妥当。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	年次計画に基づき施設の整備・改修を実施して行くことができるように今後も協議・検討して行く。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		博物館展示更新事業		グループ・担当名	博物館グループ学芸担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	05 博物館の充実			目	06 博物館費
	施策(小)	03 博物館情報提供の充実			大業	01 博物館運営事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	博物館法			経費区分	投資的経費	
事業概要	平成23年度より、館内展示のリニューアル・補修を行っており、今後も継続的に行っていく。また、展示室内ライトのLED化を進めていく。平成26年度より始めた、(旧)美幌中学校への収蔵資料移転・整理作業を継続する。					
事業目的	博物館が持つ資料や情報を充分活用できた展示コーナーを整備するとともに、町民より寄贈された資料を体系的に整理・保管することで、効果的な住民サービスができる施設づくりを目指す。					
事業の対象	博物館施設、(旧)美幌中学校収蔵庫					
実施結果	【実施結果】 随時、常設展示室の展示コーナーの更新、及び(旧)美幌中学校収蔵庫の修繕を行う。					
現状と課題	【現状と課題】 第1展示室の展示コーナー改修については、数年後の実施に向け、現在意見集約・検討中である。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,261	3,253	1,940	1,894	585	4,853
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	1,261	3,253	1,940	1,894	585	4,853
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	1,261	3,253	1,940	1,894	585	4,853

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
指標1	展示物及び展示関連器具等の更新・修繕	目標	点			140	140	100	100
		実績	点		31	38	90		
		達成率	%			27.14	64.29		
指標2		目標							
		実績							
		達成率	%						
指標3		目標							
		実績							
		達成率	%						
項目	評価の視点	評価	理由						
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	博物館の根幹機能を成す常設展示室等の展示物や、その展示環境を整えることは、極めて重要なことである。						
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	展示物を更新したり、展示環境を整備することは、目標達成のために有効な手段である。						
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	展示物や周辺器具類等の更新に必要なとなる経費を効率よく使用している。						
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状の計画で進めることが妥当である。					評価結果		
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが妥当である					予算反映額 (概算)	0千円	現状維持
今後の改善点	第1展示室各展示コーナー更新について、更新プランを協議していく。収蔵スペースの拡張に向け、仕様等について検討していく。監視カメラ改修を進める。								